**第４回甲府市社会福祉審議会児童福祉専門分科会計画部会議事録**

日時　令和元年11月21日(木)18時30分～

場所　甲府市役所　本庁舎９階　９－２

**【計画部会】**

１．開会

２. 会長あいさつ

【会長】

３. 説明

（１）甲府市子ども・子育て支援計画（素案）について

（ⅰ）施策体系について

【事務局】

施策体系について説明。

【事務局】

ご質問等ありましたらよろしくお願い致します。

【委員】

P43「⑧ひきこもり相談支援事業」の対象者はどのような方々ですか。また、同ページ「⑨自殺予防の普及啓発」について、自殺予防の教育を検討するということの具体的な中身を教えてください。

【事務局】

この場合のひきこもりとは、基本的に不登校の子どもたちが対象になります。ひきこもり相談支援事業そのものは青年期の方々も包含した取組となっておりますが、本計画に載っているものについては、子どもに関する部分として掲載しております。また、自殺予防の教育については、保健師等による健康教育等による取組を予定しています。

【事務局】

ひきこもりの定義につきましては、社会的参加、義務教育を含む就学、非常勤を含む就業、家庭外での交流を原則6ヶ月にわたって行わず、家庭内に留まっている状態のことを指します。本計画においては主に不登校のことを指しています。

【委員】

P45「計画目標②」について、子どもをつい虐待してしまう親御さんや、虐待を受けている子ども自身が電話等で相談できる場所があればありがたいのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

虐待についてはP52「施策4 子どもや家庭に寄り添う支援」の項目に記載しております。このうち、マイ保健師なども気軽に相談出来る場所という位置づけですが、P54「⑥子育て総合相談窓口『おひさま』の運営」という事業があります。内容には児童虐待通告に基づく対応ということも含まれておりますので、こちらに相談があった場合、専門職員が対応します。

【委員】

P64「⑦共生や自立を促す自然体験教室」の担当課はどちらでしょうか。また、政策全体を通して「費用の一部を助成する」という項目がいくつかありますが、その予算の取得についてどういった考えに基づいているのでしょうか。月々なのか年度予算なのか、後者の場合は早い者勝ちなのか、など。

【事務局】

自然体験教室の担当課については、現在検討中です。また、費用の考え方につきまして、市役所の会計は単年度会計、すなわち来年度の歳出を前年度に決めて、見込を立てる中で予算を取っていくという形であり、助成についてはその年に申請を受けたものに対して行います。そして、万が一予算に達した場合でも、福祉系の事業に関しては原則的に追加での対応がなされる場合が多くなっています。

【委員】

つまり、具体的な予算額を策定するにあたって、助成する数の想定を立てながらやっていくということですね。それでは、新規事業については前例が無いため予算の組み立てが困難だと考えますが、いかがでしょうか。

【事務局】

その通りであり、新規事業で助成をする場合の費用の見込というのは難しい部分もございます。他都市での類似事業の状況や、その対象がどの程度出てくるのか等、色んな角度から見込を立てて積算をしていくという形を取って進めています。

【委員】

P49「⑮遊亀公園及び附属動物園の整備」について、子どもに使われるべき予算が動物園の維持管理等に多く使われてしまうのではという不安があります。また、P64「⑥人型ロボットを活用したプログラミング教室」について、甲府市ではその教材であるペッパーくんを既に購入しているのでしょうか。

【事務局】

まず動物園について、子どもの情操教育・遊び場に関連する事業ということで計画に掲載しておりますが、この予算はまちづくり部の担当です。従って、子どもの予算が削られるということはございません。そして、ペッパーくんにつきましては、必要なときにお借りしてイベントに使用するという想定であり、購入はしていません。

【会長】

その他いかがでしょうか。それでは第４章までお認めいただいたということに致します。

（ⅱ）教育・保育と地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」と「確保量」について

【事務局】

教育・保育と地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」と「確保量」について説明。

【会長】

ご質問などいかがでしょうか。

【委員】

P87「⑧一時預かり」につきまして、在園児の一時預かりが増えている中で、現在は17園が受入をしていると伺いました。全27施設ある中で、残りの施設が申請しないという前提での見込なのか、それとも市から園に対して何かしら働きかけをしていて、その返答を踏まえての見込なのでしょうか。

【事務局】

各園に対して毎年行っている意向調査を踏まえて、来年度につきましては17+1施設までは見込んでおります。見込から増えた場合でも対応は致します。

【委員】

P67の人口推計について、出生数(0歳児)の推移のところが2020年度以降増減を繰り返しており、誤差がありすぎると感じます。信憑性に欠けるように思え、国立社会保障・人口問題研究所のデータを用いることに不安がありますが、推計の算出方法のご説明も含めて考えをお聞かせ願えたらと思います。

【事務局】

0歳児人口の算出方法につきまして、市内在住の15-49歳の女性の数に一定の係数を掛けて算出されており、係数は市町村毎に設定されております。その係数は国勢調査を基に設定されているため、社人研のデータそのものには信憑性があります。ただし、国勢調査は5年に1回の調査である関係で、社人研の推計も5年刻みで計算している上、年齢区分についても5歳刻みでのデータしかございません。ここから年度や年齢、性別、地域などの要素で分解する際に、過去5年間の実績値に基づいて按分を行っているために、ご指摘のような増減が発生しています。

【会長】

それでは第５章についてもご承認いただけますでしょうか。ありがとうございました。

（ⅲ）数値目標について

【事務局】

数値目標についての説明

【会長】

ご質問などございませんか。大丈夫でしょうか。それでは数値目標一覧表はこの通り進めるということにさせていただきます。

（２）その他

【会長】

その他に関して委員のみなさまから何かございますか。よろしいですか。では、事務局の方から何かあればお願いします。

【事務局】

次回の開催ですが、12月18日(水)18時半からを予定しております。よろしくお願いします。

４．閉会